

新編中等習字帖

中



K220.72

65

2



新編中等習字帖
中

主立京府心

忠陞階都郡

伐氏民邑

中中二

邑兔兔勾勾

君主立憲京城府縣心志
忠臣陞進階級都鄙郡衙

歷代征伐姓氏民族色彩
邑閭免許免角勾配俳句

江海徒從道

通廷延赴起

魚無鳥烏筆

算草花狐狼

江河海底徒步從容道路
通過法廷延引赴任起居

魚介無盡鳥獸烏有筆耕
算段草案花卉狐狸虎狼

好事不出門

惡事傳千里

ふたひたふふおはる
背はふさふさかたふ

中々

むかふ野山のおお
命はからしおはる

智恵ハ小出ニスベシトハ古人ノ
金言ナリ大イナル智恵ヲ
一時ニ現シテ一時ニ天下ヲ

驚サントスルヨリモ物ニ觸レ
事ニ當リ少シヅ、遲滞ナク
出シテ世ヲ渡ルベキナリ

茨城縣稻敷郡奥野村

島田信太郎様

東京市神田區錦町
三丁目五番地長沼方

伊藤藤一郎

拜啓出立の際はお立ち見送
下され有、かゝる存、年、道中
至事、昨日午後二時半、至東京
表記、安、不寄、寓、致、不、湖、安、心
下され、致、不、寄、寓、致、不、湖、安、心

七月十五日、乙午

村棧禁食發

飯銘頗效麵

反友及形彩

參女毋用周

村吏棧橋禁裡飲食發起
飯米肝銘偏頗效果麵飽

反對益友及第形容彩色
參考男女父母用件周圍

順願體術衛

樹音留章意

宅冠電風鳳

菊圃樂藥樂

順逆願書體格術數衛兵
樹木音信寄笛文章意見

宅地冠位雷電風雨鳳凰
菊桐匍匐苦樂服藥團欒

とうくと流の流む若葉の那
細顔の瓶とてもうひ水

古池や蛙をひらむ水の音 芭蕉

忠誠貫於金石

書

孝弟通於神明

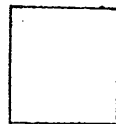
古陵松柏吼天飈
山寺尋春杳寂寥

眉雪老僧時輟帚
落花深處說南朝

大阪市南區日本橋北詰

錦織美妙様

親展



静岡縣安倍郡安東村

封
杉山松三郎

大正三年六月十二日

追。暑氣相加なり供實
 は障りなり程なり也新事
 兼て身體虚弱を時感
 冒に苦めらば我を我を
 愛想をつかし居るが昨座
 某氏の勧めにより冷水浴を
 行ひ以来たえて感冒も
 ならず健康は増してその
 我と思ひたる程相成申小
 貴兄も平素あまり強壯の方
 といはれざるやう考へる付
 今より冷水浴を始められよう
 向も少し始まれれば
 只その好時機より尚曲展
 學士玉利吉造先生の冷水
 浴の實驗と此理といふ

某氏の勧めにより冷水浴を
行ひし事たえて感冒せし
からず健康を増してまゐ
我と思ひたる程相成申し
貴兄も平素あまの強壯の方
とては存じつかやう考へ付
今より冷水浴せられやう
るも少しはなされぬは
いふその好時機より尚農
學士玉利善造先生の「冷水
浴の實驗と學理」といふ
書物は送り申上る間は一瞥先
遊ばさる度々頓首

六月十二

杉山松三郎

錦織美妙様

松下

位彼後池河

中中

冠耳室安室

改教教性轉

忠里然照飲里

佳置彼生前後者池沼河存
石冠再封郎宅出懷素筆畫外

改江表教育主殿教生性鳴轉居
忠君思惠自然照會快于自新

正書送起訓誨

孔句紀步錄步

修取仙郎

郎仙社袂

正統建運運起清訓誠通
孔聖東紀律條念錄錄金錄

陰陽取象作喜錄之志願那錄
晴朗洋律律神社分袂那錄

よづらゐるもなほしくまかま
あしあきなり影の人を回する
人あしゐるちのまゐるま

甘き何かきしゐるむとあも
一より理はなることながら那ほ
うき合はぬまゐるすも也

K2208

大正元年秋日書

日高秩父



中中中

大正元年十月廿八日印
大正二年一月三日訂正
大正二年一月六日訂正再版發行

新編中等算字帖是附

價定 上卷金貳拾錢
中卷金貳拾錢
下卷金貳拾錢

編輯者 日高秩父

發行者 東京市小石川區竹早町十六番地 柳元熊藏

印刷者 東京市神田區山本町三十番地 阿部鍋五郎

發行所

東京市小石川區竹早町拾六番地

香芸館出版部



